



2023年7月24日
株式会社 愛知銀行

あいぎんポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約締結について

株式会社愛知銀行（頭取 伊藤 行記）は、スギヤマプラスチック株式会社（本社 愛知県蒲郡市、代表取締役 杉山 景子）と、あいぎんポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約を締結しましたのでお知らせいたします。

当行はこれからも、お客さまの多様化する資金調達ニーズに応え、SDGsの趣旨に賛同するお客さまとともに、持続可能な社会づくりを目指してまいります。

記

1. 融資概要

契約締結日	2023年7月24日（月）
融資金額	500百万円
融資期間	15年
資金使途	建物建築資金

2. スギヤマプラスチック株式会社の概要

本店所在地	愛知県蒲郡市西浦町池田10番地
代表者	杉山 景子
事業内容	プラスチック製品の成形製造 射出成型加工（インサート成形、多色成形） 二次加工
設立年月日	1986年7月1日
電話番号	0533-87-5353

3. 特定されたインパクトと測定するKPI（2030年に向けた目標）

（1）省力化・効率化による成長促進
①積極的な設備投資により省力化を行い、売上を毎期5%ずつ増加させる。 ②ISO9001の継続認定取得 ③社内の製品不良率を2030年度までに10%まで低減させる。
（2）環境に配慮した取り組みの推進
①ISO14001の継続認定取得 ②廃プラスチック量の削減（2030年度までに2022年度比10%削減） ③売上高当たりのCO ₂ 排出量の削減（2030年度までに2022年度比10%削減）
（3）ダイバーシティ&インクルージョンの推進
①外国人技術者を2030年度までに5名採用する。 ②オペレーターの女性従業員比率を2030年度までに55%以上にする（2022年度：6%）

<記念盾贈呈式の様子>



株式会社愛知銀行
豊橋支店長 小野田 晃

スギヤマプラスチック株式会社
代表取締役 杉山 景子 氏

4. ポジティブ・インパクト・ファイナンスについて

国際的な金融原則の枠組みに沿った融資商品で、お客さまの企業活動が環境・社会・経済に及ぼす影響を包括的に分析・評価（以下、「インパクト評価」）します。インパクト評価により特定されたポジティブな影響の増大とネガティブな影響の低減に向けた取り組みに対して目標（以下、「KPI」）を設定し、モニタリングを実施することで、当該取り組みを継続的に支援いたします。

KPIの達成に向けて取り組む過程を対外的に発信することで、お客さまの社会的評価の向上が期待されます。

本商品では当行がインパクト評価とモニタリングを実施します（※1）。

（※1）当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体系は、株式会社格付投資情報センター（R&I）より、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が制定したポジティブ・インパクト金融原則（PIF原則）への適合についてセカンドオピニオンを取得しています。

以上

「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」評価書
～スギヤマプラスチック株式会社～

2023年7月24日
株式会社愛知銀行
営業企画部
ファイナンス戦略グループ

目次

はじめに	2
1. 企業概要	2
①会社概要	
②沿革	
③許可・認証取得一覧	
④保有特許	
⑤ビジネスモデル図	
⑥経営理念	
2. 事業内容	6
①取扱製品	
②品質管理	
③保有設備	
④廃プラスチック・不要物処理	
⑤特許について	
⑥カーボンニュートラルの取り組み	
⑦従業員の雇用、教育について	
3. 地域の課題解決に向けた取り組み	15
①愛知県の指標	
②スギヤマプラスチック株式会社の取り組み	
4. インパクトの特定	16
①インパクトマッピングによるインパクト分布	
②インパクト分布図（掲載は主要業種のみ）	
③国内のインパクトニーズ	
④海外のインパクトニーズ	
⑤特定したインパクトに対する愛知銀行の方向性との確認	
5. 測定する KPI	23
①経済面・社会面	
②環境面	
③雇用面	
6. インパクト管理体制	25
7. モニタリング方法	25
8. 総括	25

はじめに

株式会社愛知銀行は、スギヤマプラスチック株式会社の事業が「環境」・「社会」・「経済」に与えるインパクトを分析・評価し、「あいぎんポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、あいぎん PIF）」を実行した。

なお、株式会社愛知銀行は、国連環境計画金融イニシアティブ（以下、UNEP FI という）が策定した「ポジティブインパクト金融原則」、及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、スギヤマプラスチック株式会社の事業活動を分析・評価し KPI を設定した。

<融資条件概要>

融資形態	証書貸付
融資金額	500,000,000 円
資金用途	建物建築資金
融資・モニタリング期間	15 年・7 年

1. 企業概要

①会社概要

会社名	スギヤマプラスチック株式会社
設立年月日	1986 年 7 月 1 日
資本金	10,000,000 円
代表取締役	杉山 景子
事業内容	プラスチック製品の成形製造 射出成型加工（インサート成形、多色成形） 二次加工
本社所在地	愛知県蒲郡市西浦町池田 10 番地
豊川工場	愛知県豊川市小田渚町四丁目 16 番地
九州飯塚工場	福岡県飯塚市勢田 2276 番地 10
東北大崎工場	宮城県大崎市三本木字大豆坂 63 番地 48
西浦工場	愛知県蒲郡市西浦町川東 29 番地
関連会社 株式会社タイガ	愛知県豊川市小田渚町四丁目 16 番地
海外グループ会社	【中国】 杉山塑料常熟有限公司、杉山物資貿易有限公司
従業員数	166 名（2023 年 3 月末）
決算日	3 月 31 日
主な取引先	株式会社東郷製作所 株式会社アイシン 株式会社ニフコ アイシンシロキ株式会社

	トヨタ紡織株式会社 日本発条株式会社 株式会社レゾナック・オートモーティブプロダクツ	ダイハツ九州株式会社 岐阜プラスチック工業株式会社
--	--	------------------------------

②沿革

年	概要
1977年	創業
1986年	株式会社に組織変更
1988年	音羽工場新設
2003年	豊川工場購入
2005年	出荷センター、前崎工場新設
2006年	前崎工場増設
2007年	九州飯塚工場新設 杉山塑料（常熟）有限公司設立
2012年	東北大崎工場操業
2015年	東北大崎工場新設
2018年	春日浦工場新設
2023年	西浦工場新設

③許可・認証取得一覧

区分	許認可名等	行政区分等	取得営業所
品質マネジメント	ISO9001	(一財)日本品質保証機構	豊川工場
環境マネジメント	ISO14001	(一財)日本品質保証機構	豊川工場

④保有特許

文献番号	発明の名称
特許 5426043	樹脂射出成型不具合判定方法及び樹脂射出成型不具合判定装置

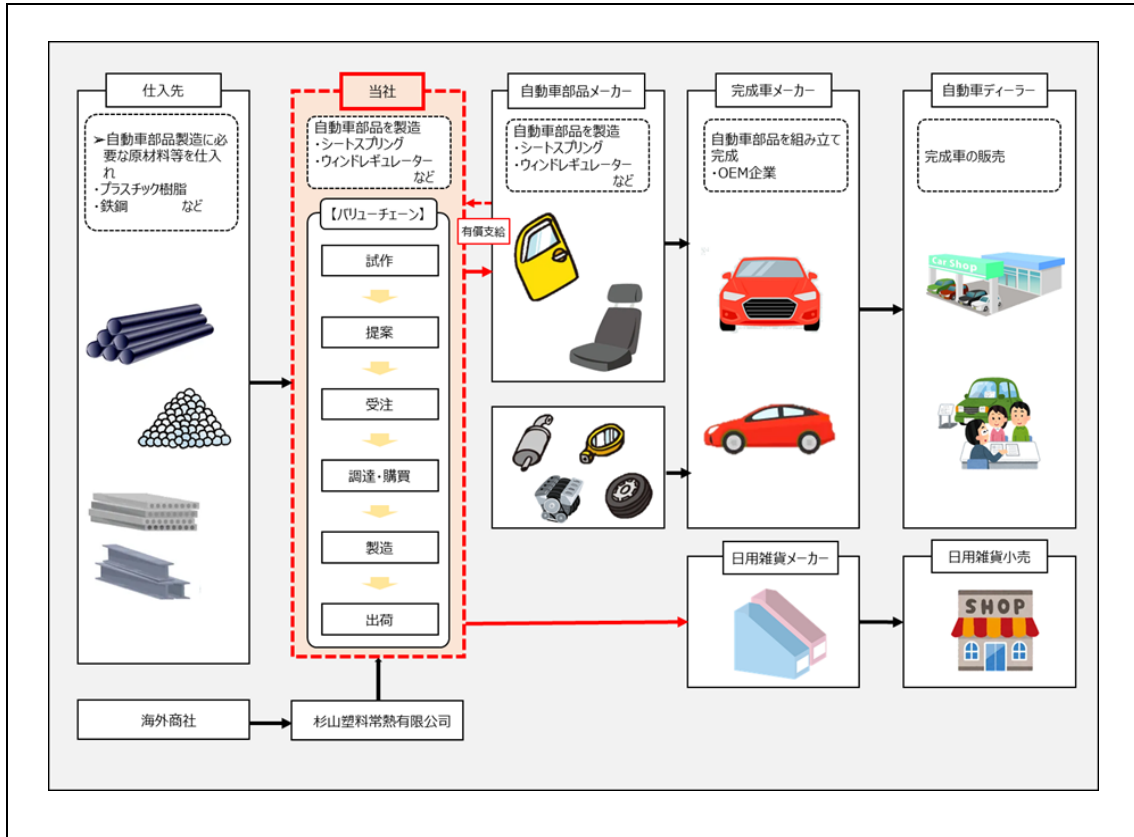
【豊川工場】



【豊川工場内】



⑤ビジネスモデル図



スギヤマプラスチック株式会社のビジネスモデルは一般的なプラスチック製造会社と同様に材料部材を仕入れ、成形製造を行い出荷している。

また、他会社などへ業務委託は行わず、自社で一貫した生産体制をとっている。

特別な加工工程が必要な場合は内職にて作業しており、主婦やWワークなど性別年齢問わず様々な人が働きやすい環境を整えている。

【内職センター】



⑥経営理念

シンプルが一番

- ムダな部分は作らない。 ～効率的な工程設計、ホットランナー～
- ムダな時間はかけない。 ～「速」考え「即」実行～
- ムダな労力をかけない。 ～ルール遵守で生産性UP～

品質目標

- 常に品質第一を心がけ、顧客満足度向上に努める。
- 絶えず技術力向上に尽力し、挑戦し続ける。
- コンプライアンス経営を重視する。

改善目標

- 現状に満足することなく、日々の業務や作業の改善に努め、生産の向上、確かな品質の維持に努めます。

～社長メッセージ～

当社は何ごとにも「シンプルが一番」をモットーとしています。
何かを決断する時は複雑に考えず、「シンプル」に考え、「速」考え、「即」実行します。

- ノウハウやネットワークを最大限生かしてムダな工程やランナーを除き「シンプル」に生産する。
- ルールに則った効率的な自動化ラインで生産性をUPさせる。
- 現状に満足せず向上心を持ち続ける。

私たちが日々心掛けている言葉です。

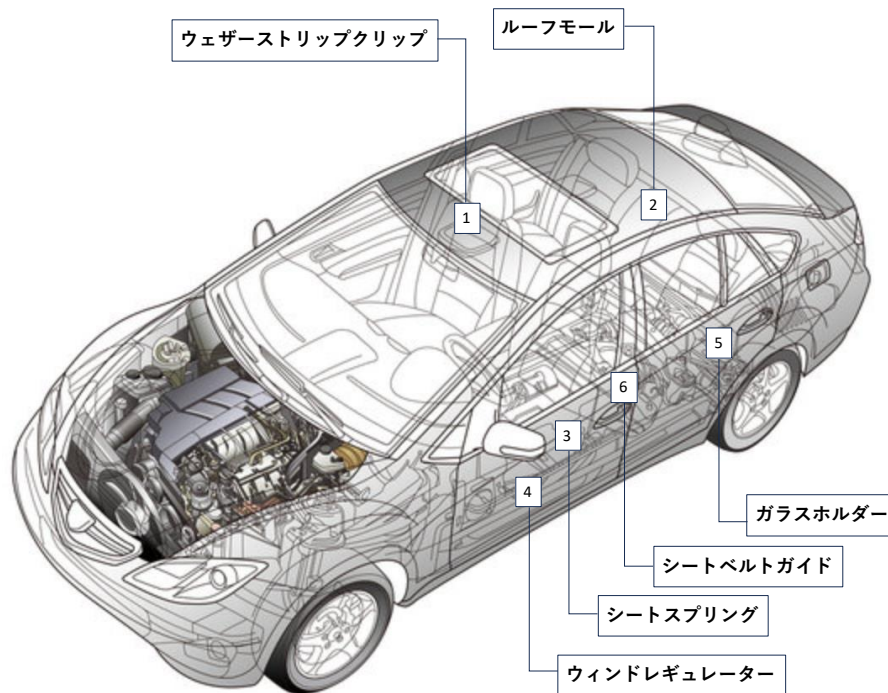
コロナ禍を経て世の中のDX化やAI化、自動車のEV化など様々な大きな変化に直面している今、最適な設備と技術、工程で当社ならではの「ものづくり」に努めていきたいと思えます。

また、SDGsやESGに積極的に取り組み続け、サステナブルな企業、可能性へ挑戦し続ける企業であり続けます。

2. 事業内容

主にトヨタ自動車向けのシートスプリングやウィンドレギュレーター等の自動車部品を製造している。工場内は省人化・自動化を進め人の配置は最小限に留めている。そのため、低価格を実現できていることが強みであり、高品質・短納期での対応を含め取引先から厚い信頼を得ている。

①取扱製品



- ・ カップホルダー
- ・ ウェザーストリップクリップ
- ・ プラグホール

- ・ ガラスホルダー
- ・ ガラスストッパー
- ・ ルーフモール

【主な製品】

分類	部品
汎用	シートスプリング
汎用	ウィンドレギュレーター
汎用	プラグホール
生活雑貨	ファイルボックス

【シートスプリング】



【ウィンドレギュレーター】



【プラグホール】



【ファイルボックス】



②品質管理

定数・同数管理

- 加工や組付け等の作業において2つ以上の物をセットする時に定数を決めて管理すること。
- 数量を定めることにより作業漏れ、未加工を防ぐことができる。主に医療現場でも行われている手法

画像判別

- 各工程に画像判別センサを導入し、目視検査を廃止。品質向上に努めている。

画像測定器

- 量産開始と同時に画像で測定することで品質保証する。
- また、異常や変化を即座に発見し対応することができる。

自動計数管理

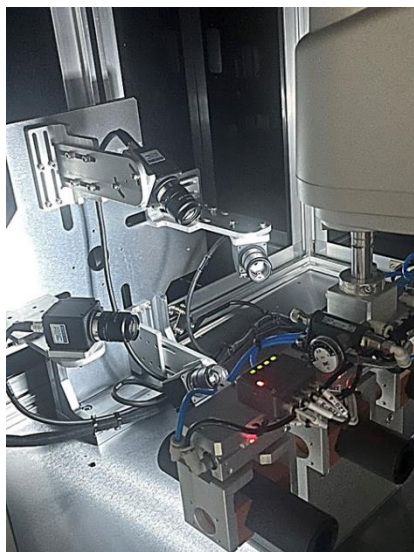
- ショット数管理による自動箱替器を使用することにより新たに計量工程を設けることなく定数を作ることができる

自動搬送

- タイムリーに製品を運搬することにより、運搬効率を向上させる。

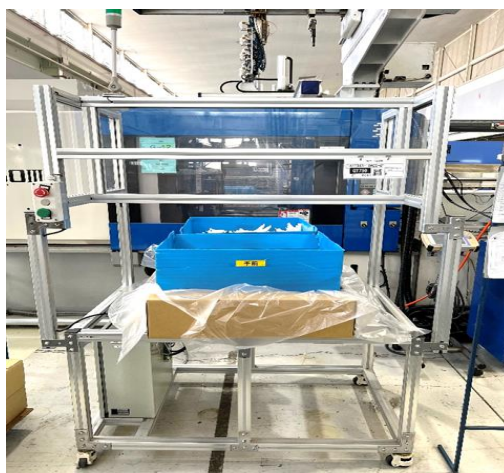
【画像測定器】

画像測定装置



【自動計数管理】

作業用自動箱替器



③保有設備

【各工場成形機一覧】

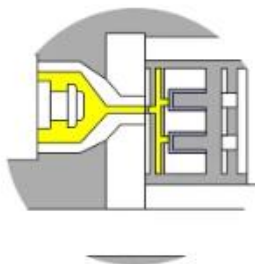
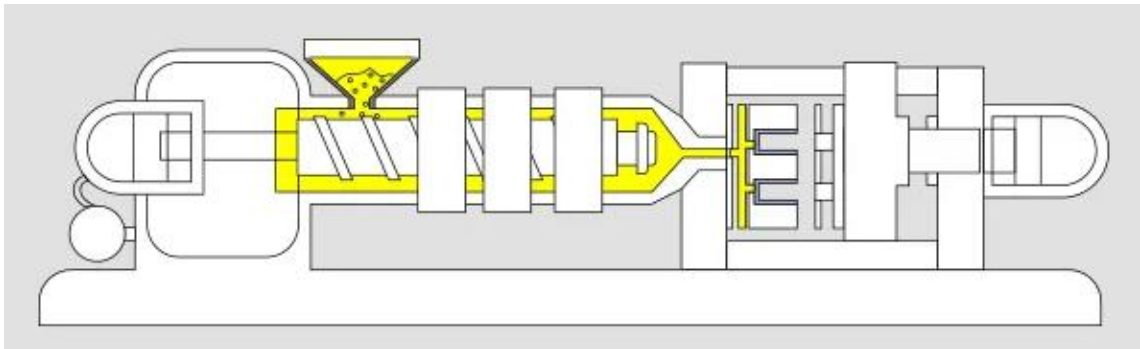
工場	タイプ	台数	合計
愛知	縦型	99	141
	横型	42	
九州	縦型	13	18
	横型	5	
東北	縦型	9	10
	横型	1	

【大型クレーン一覧】

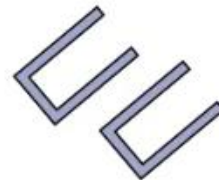
定格荷重	台数
20 t	1
15 t	1
10 t	1
2.8 t	7
2 t	2

ホットランナーとは

- ・プラスチック射出成型時において、成型機のノズルから成形品部まで溶融状態の樹脂を供給するためのシステム。
- ・ホットランナーを導入することでランナー（製品ではない不要部分）を作らず成形することができるためプラスチックの削減やサイクルタイム短縮等による生産性向上ができ、部品コストの削減ができる。



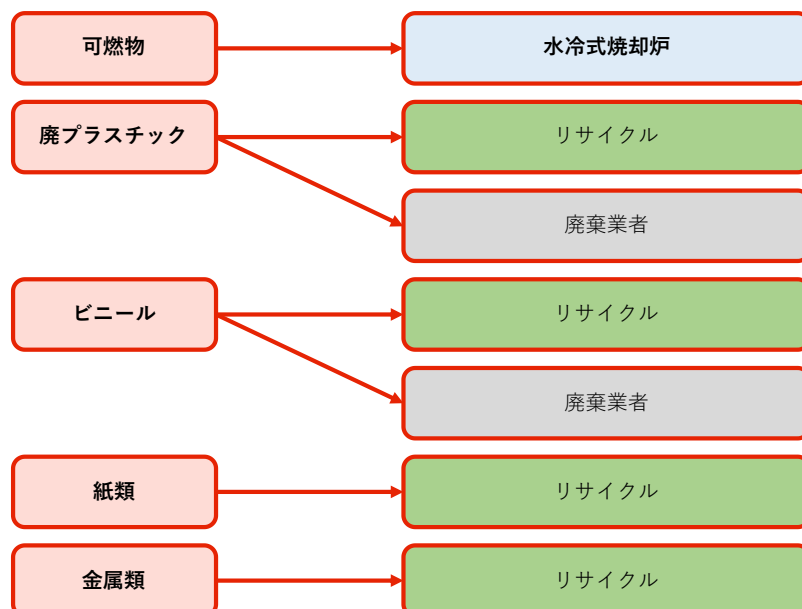
ランナー



成形品

④ 廃プラスチック・不要物処理

プラスチックリサイクル



【廃プラスチック・不要物分類】



現状：廃プラスチック処理量 年間 40,667 kg

今後：廃プラスチック徹底分別により 10%削減させる

現在、スギヤマプラスチック株式会社では、SDGsの観点からも廃プラスチック問題への対応に重点をおいている。

ランナーなど廃プラスチックを発生させないことに加え、成形し始めに発生するプラスチックの塊、ビニールや紙類など、細かく分別しリサイクルすることを会社全体で取り組んでいる。

また、可燃物は自社で無煙排ガスクリーンの水冷式焼却炉を導入し処理している。

水冷式焼却炉（ I S R -500 J ）

- 廃プラスチック燃焼に対応
- ロストル装備で高い焼却効率を維持
- 水冷式で長時間の安定燃焼が可能
- サイクロン集じんにより高い消煙・集じん能力

【水冷式焼却炉（ I S R -500 J ）】



⑤特許について

スギヤマプラスチック株式会社は、自動車産業の発展をめざした新たな技術開発および高品質製品の供給に向け、熱心に研究開発へ取り組んでおり積極的に特許を出願している。

権利保有している特許については、射出成形時におけるプラスチック製品の不良を防止する技術であり、生産性の向上による納期短縮につなげるとともに、プラスチックの廃棄を低減させることでSDGsに貢献している。

文献番号	出願日	発明の名称	権利状況
1 特許2989534	1996/1/19	溝蓋、及びその消音具	特許査定 (抹消)
2 特開平10-068102	1996/8/28	鉄板製踏板の端縁部に嵌着される端縁カバー	拒絶査定
3 特開平10-139940	1996/11/13	加硫ゴム混入樹脂成形品	未審査請求
4 特開平10-152884	1996/11/22	溝蓋用消音材	拒絶査定
5 特開2000-160671	1998/11/24	グレーチング用消音材	拒絶査定
6 特開2010-064376	2008/9/11	インサート射出成型方法及び成型型、金属線材保持具	未審査請求
7 特許5426043	2013/5/13	樹脂射出成型不具合判定方法及び樹脂射出成型不具合判定装置	特許査定
8 特許5901822	2015/5/15	樹脂射出成型方法及び樹脂射出成型装置	特許査定 (抹消)
9 特許5901823	2015/5/18	樹脂射出成型方法及び樹脂射出成型装置	特許査定 (抹消)

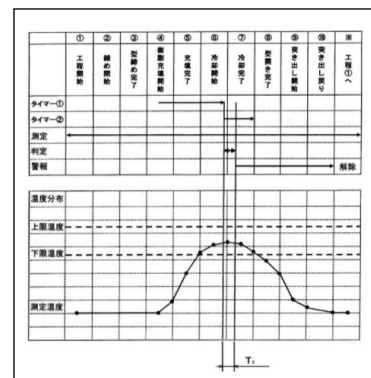
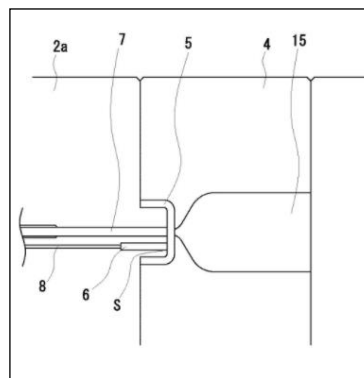
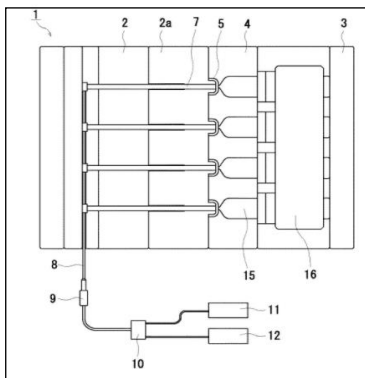
【要約】7「樹脂射出成型不具合判定方法及び樹脂射出成型不具合判定装置(特許 5426043)」

【課題】

金型内での樹脂の最終充填位置に十分に樹脂が到達しない場合には、成形品の充填不具合により、射出成形品の端末部に不良が発生することを防止する。

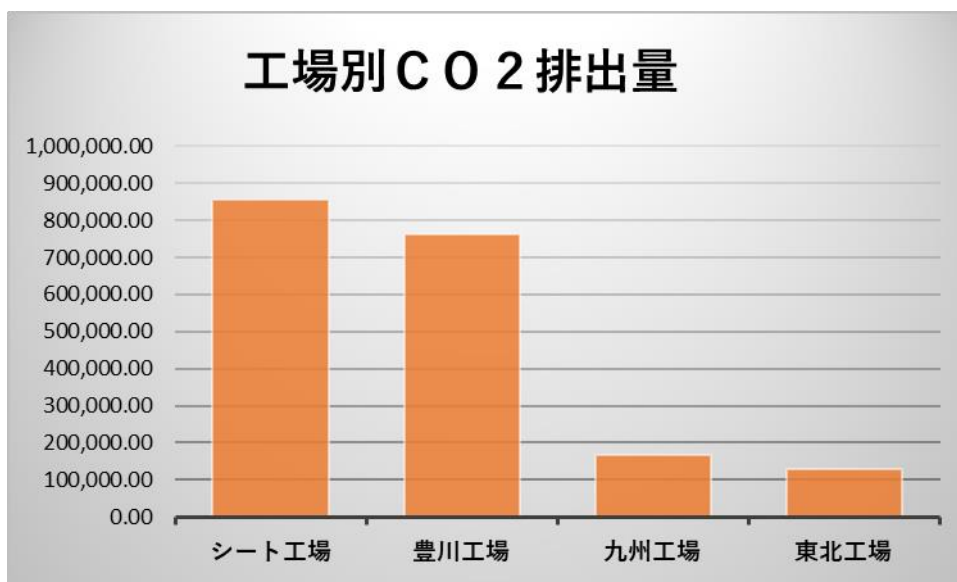
【解決手段】

樹脂射出成型装置 1 は、可動側取付板 2 に固定されるコア 2 a と固定側取付板 3 との間に中間プレート 4 を有し、コア 2 a と中間プレート 4 の間が分割面となり、中間プレート 4 にキャビティ 5 が形成され、可動側取付板 2 とコア 2 a に温度センサー 6 が組み込まれた成形品取り出し用部品であるエジェクタピン 7 を備え、エジェクタピン 7 が最終充填位置に配置され、検出された温度値が最も上昇する時点(最大値 Mmax)の前後の所定時間範囲 T0 内で、検出された温度値 M と、設定された上限温度値 K1 及び/又は下限温度値 K2 とを比較し、検出された温度値が上限温度値 K1 以上、または、下限温度値 K2 以下と判定される場合には、成形不良と判定する。



⑥カーボンニュートラルの取り組み

CO₂排出量の削減に向けて、国内工場のCO₂排出量の「見える化」を行い、様々な取り組みを行っている。



エネルギー利用の効率化のため、各事業所の屋根に耐熱塗装を施したり、省エネタイプのエアコンへの変更、照明の間引き点灯など細かな取り組みを行っている。

照明について、当社では全ての工場においてLEDへの切り替えが100%完了しており、更なるリニューアルを計画している。

また、西浦工場では屋上に太陽光発電システムを導入し、工場で自家消費している。西浦工場での発電状況を踏まえ、他の工場へも設置することを検討している。

【西浦工場の太陽光発電】



【LED照明】



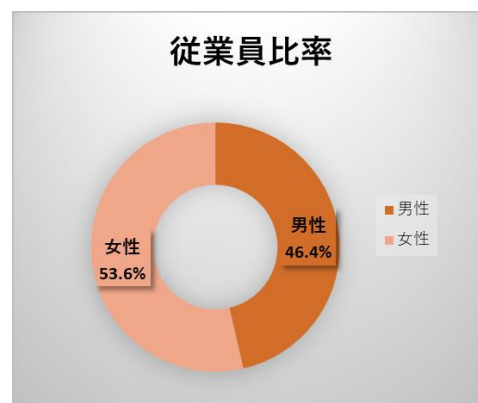
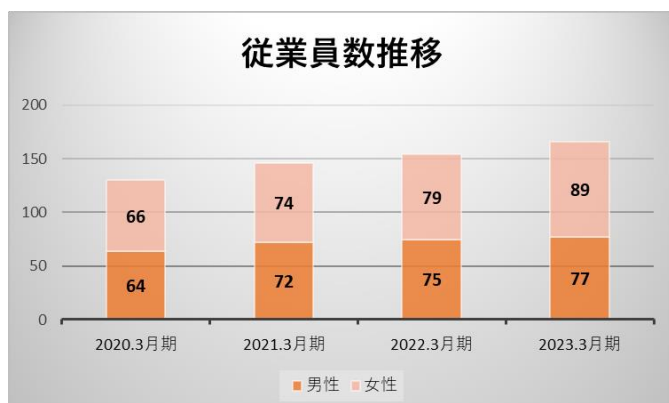
⑦従業員の雇用、教育について

スギヤマプラスチック株式会社の従業員数は男性 77 名、女性 89 名の計 166 名となっている。産休取得から育児短時間勤務まで積極的に利用されており、男女問わず活躍できる職場環境を提供している。

従業員の資格保有状況は以下の通りである。

フォークリフト運転 30 名、玉掛け免許 13 名、プラスチック成形技能士 2 級 3 名、床上操作式クレーン 2 名、研削砥石特別教育 2 名、等となっている。各資格取得の費用負担は全額当社が負担しており、積極的な資格取得を推進している。

		2020.3月期	2021.3月期	2022.3月期	2023.3月期
従業員数	総数	130	146	154	166
	男性	64	72	75	77
	女性	66	74	79	89
入社数 (内新卒数)		41	56	52	54
		5	6	6	4
退社数		37	48	43	43
平均年齢	全体	42.05	42.75	43.8	42.8
	男性	38.1	39.2	40.3	39.3
	女性	46	46.3	47.3	46.3
外国籍	総数	4	4	4	5
有給取得率	平均	32.35	23.5	25.1	43.6
	男性	23	16.5	15.4	35.3
	女性	41.7	30.5	34.8	51.9
産休取得者数 (率)		-	1 (100%)	1 (100%)	1 (100%)
育休取得者数 (率)		-	1 (100%)	1 (100%)	-
育児短時間勤務者数		2	2	2	2



3. 地域の課題解決に向けた取り組み

①愛知県の指標

スギヤマプラスチック株式会社は、本社を愛知県蒲郡市、工場を愛知県豊川市・福岡県・宮城県に構えており、愛知県を中心に事業展開している。

愛知県においては、リニア中央新幹線が全線開業しスーパー・メガリージョンの形成が期待される 2040 年頃を展望し、2030 年度までに重点的に取り組むべき政策の方向性を示す「あいちビジョン 2030」を 2020 年 11 月に策定した。2030 年度に向けた基本目標として「暮らし」、「経済」、「環境」の指標に加え、SDGs に関連する目標として「重要政策の方向性」を掲げている。

<重要政策の方向性> (一部抜粋)

重要政策の方向性	主要な政策の方向性	内容等
すべての人が生涯にわたって活躍できる社会づくり	◆女性の活躍促進 ・活躍の場の拡大と職場定着の促進	・女性をはじめとした様々な主体の参画 ・働く場での女性の活躍拡大
豊かな時間を生み出す働き方が可能な社会づくり	◆新技術を活用した効率的な働き方の促進 ・省力化や無人化の促進 ・移動の効率性向上	・労働時間の短縮や生産性の向上 ・職場の省力化や無人化を促進 ・Maas や自動運転の社会実装を推進 ・移動時間の最適化や効率的な活用
イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり	◆次世代産業の振興 ・自動車産業の振興 ・戦略的な産業集積の促進	・CASE、Maas 等自動車産業の変革期をリード ・EV、PHV 等次世代自動車の更なる普及拡大 ・長年県内に立地している企業の再投資 ・産業集積や投資を促進
持続可能な地域づくり	◆脱炭素社会を見据えた地球温暖化対策の推進 ・再生可能エネルギー当の導入拡大と地産地消の推進 ・環境・新エネルギー産業の振興と ESG 投資の呼び込み ・廃棄物の適正処理に向けた取組	・再生可能エネルギーの主力電源化 ・太陽エネルギーの更なる活用 ・グリーン購入の促進 ・省エネルギー設備の導入 ・再生可能エネルギーの利用 ・プラスチックごみへの対策 ・製造、流通、使用、廃棄における 3 R

②スギヤマプラスチック株式会社の取り組み

i) 省人化 (女性の活躍推進)

スギヤマプラスチック株式会社は自動化ラインに特に力を入れており、その工程は国内外問わずグローバル視点で構成されている。自動化による省人化の実現で働き方改革を加速させることができている。また、代表者が女性であることから、女性ならではの意見や積極的な姿勢など性別にとらわれず活躍する場を作り出すことができている。

ii) プラスチック廃棄物の低減 (ホットランナーの導入)

ホットランナーとは、射出成形金型において、成形機のノズルから成形品部(キャビティ)まで熔融状態の樹脂を供給するシステムである。このホットランナーを積極的に導入しており、廃棄部材(ランナー)や使用樹脂材料の削減に加え、サイクルタイム短縮等による生産性および品質の向上につなげている。

4. インパクトの特定

①インパクトマッピングによるインパクト分布

愛知銀行は事業性評価の分析によりスギヤマプラスチック株式会社の主要、関連業種を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングからポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。スギヤマプラスチック株式会社の業種カテゴリは多岐に渡る為、分布は主要業種の掲載に限定する。分布図中の「赤色」は重要な影響があるカテゴリ、「黄色」は影響があるカテゴリを示す。スギヤマプラスチック株式会社の事業活動を通じて関与できるカテゴリに限定して影響を検討する。

②インパクト分布図（掲載は主要業種のみ）

【当社の川上における事業のインパクト】

	プラスチック製品製造		プラスチック及び合成ゴム素材製造業		自動車部品及び付属製品製造業	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水(可用性)						
食料						
住居						
健康・衛生						
教育						
雇用						
エネルギー						
移動手段 (モビリティ)						
情報						
文化・伝統						
人格と人の 安全保障						
正義・公正						
強固な制度・ 平和・安定						
水(品質)						
大気						
土壌						
生物多様性と 生態系サービス						
資源効率・ 安全性						
気候						
廃棄物						
包括的で 健全な経済						
経済収束						

川上の業種として、プラスチック製品製造業、プラスチック及び合成ゴム素材製造業並びに自動車部品及び付属製品製造業を掲載している。当社は、主に自動車部品製造業であるが、プラスチック及び樹脂等の原材料の仕入れを行っている。また、販売先である部品メーカーから材料支給を受けていることから、自動車部品製造業を川上の業種としても位置付けている。

川上の事業では、主に環境面のネガティブインパクトが挙げられる。当社では、ホットランナーの導入により、廃プラスチックの削減に努めている。取引先である自動車部品メーカーからの支給材について、想定される廃プラスチックの量を見越して支給されるが、廃プラスチック量の削減により、少ない支給材での生産が可能になり、川上の事業での資源効率・安全性のネガティブインパクト低減を図っている。

【当社における事業のインパクト】

	プラスチック製品製造		他に分類されない その他の金属製品製造業		自動車部品 及び 付属製品製造業	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水(可用性)						
食料						
住居						
健康・衛生						
教育						
雇用						
エネルギー						
移動手段 (モビリティ)						
情報						
文化・伝統						
人格と人の 安全保障						
正義・公正						
強固な制度・ 平和・安定						
水(品質)						
大気						
土壌						
生物多様性と 生態系サービス						
資源効率・ 安全性						
気候						
廃棄物						
包括的で 健全な経済						
経済収束						

当社の事業においては、「雇用」「移動手段」「包括的で健全な経済」のカテゴリにおいてポジティブインパクトが期待できる。「雇用」については、生産設備のロボット化を進めることで、多能工化及び幅広い部署の仕事が担えるような部署間の連携を進めている。また、従来の力を必要とする業務の削減を図ることができている。そのため、男性だけではなく女性や外国人等多様な人材が活躍できる環境を整えている。「移動手段」については、自動車部品メーカーとして、ニーズに即した部品を当社の強みである省人化・自動化により低価格・高品質で提供することで自動車業界を支えている。「包括的で健全な経済」については、市場への的確な製品供給を通じてサプライチェーンを支えている。

製造・加工工程においては、環境面のネガティブな影響に配慮する必要がある。当社では、射出成形にホットランナーを導入することで、射出成形時に発生するランナーを作らず成形しており、廃プラスチックの削減を図っている。また、HV車やEV車の導入、工場の緑化を通じて環境負荷低減に取り組んでいる。

【当社の川下における事業のインパクト】

	その他の非専門店小売業		自動車部品 及び 付属製品製造業	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水(可用性)				
食料				
住居				
健康・衛生				ネガティブ
教育				
雇用	ポジティブ		ポジティブ	
エネルギー				
移動手段 (モビリティ)			ポジティブ	
情報				
文化・伝統				
人格と人の 安全保障				ポジティブ
正義・公正				
強固な制度・ 平和・安定				
水(品質)				ポジティブ
大気				ポジティブ
土壌				ポジティブ
生物多様性と 生態系サービス				
資源効率・ 安全性				ネガティブ
気候				ネガティブ
廃棄物				ポジティブ
包括的で健全 な経済	ポジティブ		ポジティブ	
経済収束			ポジティブ	

川下の事業では、自動車部品製造が主であるが、一部日用雑貨品を製造しているため、その他の非専門店小売業についても掲載している。

自動車部品製造業の「移動手段」においてポジティブな影響が考えられる。ニーズに即した部品提供を通じ、自動車業界を支える商品の製造に貢献する。「包括的で健全な経済」において、川下の事業者を通じて当社の多様な製品が市場に供給されることで、企業にとどまらず個人消費者の生活に寄与し、経済活動を促進している。

※インパクト分析のまとめ

主要業種の分析結果として、主に雇用、移動手段及び包括的で健全な経済のポジティブインパクトの拡大が期待できる。車内の快適環境や安全性を高める部品提供を行うことで自動車業界を支えている。また、工場内のロボット化や労働環境の整備を進めることで女性の積極登用を行っている。ネガティブインパクト低減については、主に環境面において設備導入や環境負荷削減に資する取り組みを行うことで低減を図っている。

上記分析を踏まえ、KPIを設定する。

③国内のインパクトニーズ

下記に示したのは、「SDGs インデックス&ダッシュボード 2023」を参照したものであり、「SDGs 達成を緑色」、「課題が残っている SDGs を黄色」、「重要な課題を橙色」、「主要な課題を赤色」としている。

「4.インパクトの特定」において愛知銀行が特定したスギヤマプラスチック株式会社のインパクトと対応する SDGs のゴール「5、8、9、12、13」について、多くが課題のあるゴールに該当するものとなっており、国内のインパクトニーズと整合的である。



特定したインパクトカテゴリー	対応する SDGs のゴール
雇用	5 「ジェンダー平等を実現しよう」
雇用	8 「働きがいも経済成長も」
移動手段、包括的で健全な経済	9 「産業と技術革新の基盤を作ろう」
水（品質）、土壌、資源効率・安全性、廃棄物	12 「つくる責任、つかう責任」
大気、気候	13 「気候変動に具体的な対策を」

④海外のインパクトニーズ

スギヤマプラスチック株式会社は主要な業種において海外子会社を有するため、海外のインパクトニーズについても整合性を分析する。特に関連度の高い国はスギヤマプラスチック株式会社が子会社および協力会社を有する中国である。

特定したインパクトに対応する SDGs のゴール「5、8、9、12、13」は、中国においても重要度が高いことが確認できる。

※中国のインパクトニーズ



特定したインパクトカテゴリー	対応する SDGs のゴール
雇用	5 「ジェンダー平等を実現しよう」
雇用	8 「働きがいも経済成長も」
移動手段、包括的で健全な経済	9 「産業と技術革新の基盤を作ろう」
水（品質）、土壌、資源効率・安全性、廃棄物	12 「つくる責任、つかう責任」
大気、気候	13 「気候変動に具体的な対策を」

⑤特定したインパクトに対する愛知銀行の方向性との確認




愛知銀行グループは、経営理念である「地域社会からの信頼を大切にし、地域社会の繁栄に貢献します」に基づく事業活動を通じて、「地域の発展」と「企業価値の向上を目指すとともに、持続可能な地域社会の実現に貢献すること」をサステナビリティ方針として掲げている。上記分析で特定したスギヤマプラスチック株式会社の事業活動によるインパクトは、愛知銀行グループのサステナビリティ方針と整合的である。

5. 測定する KPI



①省力化・効率化による成長促進

項目	内容
インパクトの種類	経済面・社会面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリー	「包括的で健全な経済」、「移動手段」
関連する SDGs	  
対応方針	①省力化による売上増加 ②品質管理の維持・向上 ③製品不良率の低減
KPI・目標	①積極的な設備投資により省力化を行い、売上を每期 5%ずつ増加させる。 ②ISO9001 の継続認定取得 ③社内の製品不良率を 2030 年度までに 10%まで低減させる。

②環境に配慮した取り組みの推進

項目	内容
インパクトの種類	環境面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリー	「水（品質）」、「大気」、「土壌」、「資源効率・安全性」、「気候」、「廃棄物」
関連する SDGs	  
対応方針	①②環境負荷の低減 ③カーボンニュートラルへの取り組み
KPI・目標	①ISO14001 の継続認定取得 ②廃プラスチック量の削減 (2030 年度までに 2022 年度比 10%削減) ③売上高当たりの CO ₂ 排出量の削減 (2030 年度までに 2022 年度比 10%削減)

③ダイバーシティ&インクルージョンの推進

項目	内容
インパクトの種類	雇用面でポジティブインパクトの拡大
インパクトカテゴリー	「雇用」
関連する SDGs	 
対応方針	①②平等で働きやすい労働環境
KPI・目標	①外国人技術者を 2030 年度までに 5 名採用する。 ②オペレーターの女性従業員比率を 2030 年度までに 55%以上に する。(2022 年度：6%)

6. インパクトの管理体制

スギヤマプラスチック株式会社は、最高責任者を杉山社長として組織的にインパクトの管理体制を整備している。また、杉山社長を中心に各事業部と連携しサステナビリティ経営の充実に向けた施策の検討及び実施・検証する体制を構築している。

<管理体制>

最高責任者	代表取締役社長 杉山 景子
管理責任者	常務取締役 大岡 達司

7. モニタリング方法

あいぎん PIF で設定した KPI の進捗に対するモニタリングは、管理責任者である大岡常務と株式会社愛知銀行の担当部署（営業店および営業企画部ファイナンス戦略グループ）が年 1 回以上の協議にて確認する。

協議において、スギヤマプラスチック株式会社は設定した KPI の達成度について情報を開示する。株式会社愛知銀行は、達成度・進捗度を確認・検証したうえで、必要があれば KPI の修正を検討し、同社に対して適切な助言を行い支援する。

また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センター（R&I）による包括的な年次レビューを受ける。

8. 総括

本件については、UNEP FI の「ポジティブインパクト金融原則」に準拠したファイナンスであり、スギヤマプラスチック株式会社の事業活動がポジティブインパクトの増大およびネガティブインパクトの低減につながることを確認した。また、KPI 達成に向けた取り組みやモニタリングを通じ、持続的な ESG および SDGs への貢献につながる取り組みであることを確認した。

以 上



セカンドオピニオン

スギヤマプラスチック株式会社

ポジティブインパクトファイナンス

2023年7月24日

ESG評価本部

担当アナリスト：新井 真美

格付投資情報センター（R&I）は愛知銀行がスギヤマプラスチックに対して実施したポジティブインパクトファイナンスについて国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が制定したポジティブインパクト金融原則（PIF原則）に適合していることを確認した。

R&Iは別途、愛知銀行のあいぎんポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制がPIF原則に適合していることを確認している¹。今回のファイナンスに関して愛知銀行の調査資料の閲覧と担当者への質問を実施し、実施体制の業務プロセスがPIF原則に準拠して適用されていることを確認した。

愛知銀行が実施するインパクトファイナンスの概要は以下のとおり。

(1) 融資先

社名	スギヤマプラスチック株式会社
所在地	愛知県蒲郡市
設立	1986年7月
資本金	10百万円
事業内容	プラスチック製品の製造販売、射出成形加工、二次加工
従業員数	166名（2023年3月末）

1977年の創業以来、プラスチック製品の製造を手掛ける。本社を置く愛知県に加えて宮城県や福岡県にも工場を置き、中国の現地法人も含め充実した製造拠点を持つ。主要製品は自動車部品で、トヨタ自動車向けのシートスプリングやウィンドレギュレーター等を中心に取り扱う。この他、一部日用雑貨の製造も行う。「シンプルが一番」をモットーとし、長年の経験に基づく無駄のない効率的な工程設計にこだわりを持つ。特に生産ラインの自動化を積極的に進め、高品質な製品をスピーディーに供給できる体制を構築しており、取引先からの信頼も厚い。雇用面では、女性経営者の視点を生かしてダイバーシティを推進し、性別や国籍にとらわれず活躍できる労働環境を整備している。事業活動に伴う環境負荷の低減にも注力し、廃プラスチックの削減やCO2排出抑制に向けた設備投資を進める。

(2) インパクトの特定

愛知銀行は融資先の事業内容や主要な仕入先・販売先、展開地域等に関するヒアリングに基づいて事業性評価を行い、バリューチェーンの各段階において発現するインパクトを分析した。

融資先の主要事業であるプラスチック製品製造におけるインパクトをUNEP FIが提供するインパクトマッピングのデータから洗い出した。自動車製造に不可欠な部品を安定供給することで「移動手段」「包括的で健全な経済」の面でポジティブな影響を与えている。受注内容に応じて選定する最適な設備と創業来培ったノウハウを生かし、顧客ニーズに即した質の高い製品を提供する。自動車部品同様、日用雑貨についても徹底した品質管理の下で製造しており、小売り大手による販売を通じて多くの消費者の生活に寄与している。生産工程の自動化にも注力する。ロボットの導入によって業務効率化を進め、コスト低減と短納期を実現することでポジティブインパクトの一層の拡大を図る。生産ラインの省力化は女性活躍の場を広げることもつながっている。製造現場で活躍できる人材を増やし、従業員一人ひとりにとって働きが

¹ 2022年7月13日付セカンドオピニオン「あいぎんポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制」
https://www.ri.co.jp/news_release_suf/2022/07/news_release_suf_20220713_jpn_01.pdf

いのある職場づくりを目指す。製品製造に伴い環境面において「廃棄物」等のネガティブインパクトの発現が想定されるが、廃プラスチックを発生させずに射出成形できるシステムを導入し、原材料を最大限活用した無駄のない生産を行う。脱炭素化に向けた取り組みとしては自家消費用太陽光発電やHV・EVの導入を進めている。

愛知銀行は上記分析で特定したインパクトカテゴリをSDGsに対応させ、事業活動の中心である日本と現地法人を置く中国のインパクトニーズをそれぞれ確認した。持続可能な開発ソリューションネットワーク(SDSN)が提供するSDGダッシュボードを参照し、融資先の事業に関連するSDGsの取り組みは日中両国において重要性が高いことを確認した。

愛知銀行は、同行グループのサステナビリティ方針『『地域の発展』と『企業価値の向上』を目指すとともに持続可能な地域社会の実現に貢献する』と融資先の取り組みが整合的であると考えている。




(3)インパクトの評価

愛知銀行は特定したインパクトの実現を測定できるようインパクトの内容を整理し、2030年に向けた目標としてKPIを設定した。

① 省力化・効率化による成長促進

インパクトの種類	経済面でポジティブインパクトを拡大 社会面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「包括的で健全な経済」「移動手段」
関連するSDGs	  
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> 省力化による売り上げ増加 品質管理の維持・向上 製品不良率の低減
KPI・目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 積極的な設備投資により省力化を進め、売上を毎期5%ずつ増加させる ② ISO9001の継続認定取得 ③ 2030年までに社内の製品不良率を10%まで低減させる

② 環境に配慮した取り組みの推進

インパクトの種類	環境面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「水(質)」「大気」「土壌」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」
関連するSDGs	  
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の低減 カーボンニュートラルへの取り組み
KPI・目標	<ul style="list-style-type: none"> ① ISO14001の継続認定取得 ② 廃プラスチック量の削減(2030年度までに2022年度比10%削減) ③ 売上高当たりのCO2排出量の削減(2030年度までに2022年度比10%削減)

③ ダイバーシティ&インクルージョンの推進

インパクトの種類	雇用面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	 
対応方針	・ 平等で働きやすい労働環境の整備
KPI・目標	① 2030年までに外国人技術者を5名採用する ② 2030年までにオペレーターの女性従業員比率を55%以上にする (2022年度:6%)

愛知銀行は、融資先が社長と経営企画室を中心としてインパクトを管理し、KPI 達成に向けた施策を推進する体制を整備していることを確認した。

(4) モニタリング

愛知銀行のモニタリング担当者は、融資先のインパクト管理担当者と少なくとも年に1度 KPI の進捗・達成度を検証し、必要に応じて KPI の修正を検討する。目標達成に向けたノウハウの提供や助言等を通じ、融資先の取り組みを継続的に支援する。

以上

【留意事項】

セカンドオピニオンは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

セカンドオピニオンは、企業等が環境保全及び社会貢献等を目的とする資金調達のために策定するフレームワークについての公的機関又は民間団体等が策定する当該資金調達に関連する原則等との評価時点における適合性に対する R&I の意見です。R&I はセカンドオピニオンによって、適合性以外の事柄（債券発行がフレームワークに従っていること、資金調達の目的となるプロジェクトの実施状況等を含みます）について、何ら意見を表明するものではありません。また、セカンドオピニオンは資金調達の目的となるプロジェクトを実施することによる成果等を証明するものではなく、成果等について責任を負うものではありません。セカンドオピニオンは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。セカンドオピニオンは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&I はセカンドオピニオンを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報は、R&I がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&I は、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&I は、セカンドオピニオン及びこれらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&I は、R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報、セカンドオピニオンの意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やセカンドオピニオンの使用に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何や R&I の帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとし、セカンドオピニオンに関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&I に帰属します。R&I の事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

セカンドオピニオンは、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。

【専門性・第三者性】

R&I は 2016 年に R&I グリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017 年から ICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則/ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018 年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。

R&I の評価方法、評価実績等については R&I のウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>）に記載しています。

R&I と資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。